

北日本精機株式会社 【芦別市】

- ・代表者 代表取締役社長 小林英一
- ・事業内容 高精度(超小型・超薄型)ボールベアリングの製造
- ・設立 昭和44年(1969年)
- ・資本金 2億750万円
- ・従業員数 580名
- ・住所 〒079-1371 芦別市上芦別町26-23
- ・電話番号 (0124) 22-1250
- ・FAX番号 (0124) 22-1038
- ・E-Mail info@sppc.co.jp
- ・URL <http://www.ezo-brg.co.jp>

芦別から世界市場に進出を果たした本道 グローバル企業の先駆者

北日本精機は、現社長の小林英一氏が、北海道の炭坑用機械のベアリングの営業を行っていたことを契機に、40年前に創業した高精度ボールベアリングの専門メーカーです。その当時から世界市場を目指して技術の向上に努め、30年前の昭和52年(77年)には欧米向けの輸出を開始しました。今年度の日本企業の間接決算は、軒並み過去最高益を達したと報道されています。その主な理由は、自動車をはじめ付加価値の高いものづくり産業が、欧米や中国、ロシア、インドなどの新興国に対する輸出が好調だったことが挙げられます。北海道にも世界市場に打って出るものづくり産業がもっとあれば状況は違っていたはず。北日本精機は、そんな鬱憤を見事に晴らしてくれる本道グローバル企業の先駆者として、【星の降る里】芦別の天空に輝く希望の一等星です。

企業人ご紹介

代表取締役 小林英一(こばやしえいいち)さん



北日本精機の創設者である小林英一さんは、1931年生まれの御年76歳とされますが、お会いする度に益々お元氣なご様子で、頭腦明晰、非常にエネルギッシュな方です。世界中に販売された製品の売上傳票を入念にチェックされ、市場動向の分析も日々怠らないそうです。

地方発の世界企業である【グローバル企業】の成功者として、その秘訣をよく聞かれるそうですが、インターネットの発達により世界中と直接取引ができるため、むしろ地方の方が土地代も安く、人材の確保においてもメリットが大きいとのこと。そして優秀な人材が地域に定着するために街づくりにも企業をあげて多大に貢献されています。

こうした小林さんの確固たる経営マインドは、いにしへの武將が地方を治め日本全土が栄華を誇った時代を彷彿させます。武士道精神に溢れた方とお見受けします。

機械に生命の息吹を与える【高精度ボールベアリング】は世界市場を席卷

日本はもともと精度の高いものづくりは得意としているところです。それでもミリ単位のボールベアリングを作ることは至難の業です。北日本精機はそれまで熟練の手作業に頼っていた高精度のボールベアリングの自動量産化に成功しました。ボールベアリングは動物で例えるならば『関節部分』。それが高精度であればあるほど動きの自由度が増します。こうして、北日本精機の技術のおかげで『自由』を得た機械は、ロボット、コンピュータ、医療などの精密機械から自動車まであらゆる産業分野に及びます。言わば、機械に生命の息吹と進化を与え続ける第一人者と言えるでしょう。現在、製品は超小型や超薄型をはじめ5000種類を超え、その60%は北海道を象徴する【EZO】ブランドを冠して世界38カ国に輸出、ステンレス製の高精度ボールベアリングでは世界市場の80%を占めるに至っています。弛まない設備投資と技術の向上、緻密な情報分析、人材の育成により、他国の追従を許さない圧倒的なパワーで世界をリードしています。

団塊世代の移住計画も見すえた【一大ものづくり都市】の建設構想も始動

北日本精機は、北海道芦別発のグローバル企業であり続けることにこだわります。確かにスイスやドイツなど精密機械が盛んな所は北海道のように空気が澄んでいます。しかしそれ以上に北日本精機は芦別に新たな産業都市を造ろうと考えています。自社の発展を拠点に多くの従業員と家族の輪を拡大して【一大ものづくり都市】を築く。それはトヨタが豊田市を築いたのと同じ発想かも知れません。西芦別の遊休地49万㎡を自ら取得し、ここに団塊世代の移住計画を含め、今年2月に芦別市、商工会議所、建設業界と連携して、オール芦別でニュータウンの開発構想を確認したのもその一環です。原油高騰による暖房エネルギー源の転換を見越し、精密機械技術の活用より木質ペレットと専用ストーブの開発に着手、その事業に団塊世代の参加も促して、ここに住む誰もが幸せを感じるニューライフのビジョンを描いています。本州の協力企業も芦別に進出を決定して仲間の輪に参加を表明し、この構想は実現に向けて着実に前進しています。

